

CCOP常駐代表に隈丸優次公使が就任

村尾 智¹⁾

タイのバンコクに東・東南アジア地球科学計画調整委員会(略称CCOP)という国際機関があります。CCOPは、地球科学関係のプロジェクトをコーディネートし、先端技術や政策についてワークショップ、セミナー、研修等の実施をミッションとした組織で、年間70件近い行事を実施しています。わが国はその創設以来、深くかかわっており(たとえばReedman and Shimazaki, 2006)、存在感のある加盟国となっています。

さて、かつて国連に属していたCCOPですが、現在は独立した専門機関として独自の事務局を持っています。したがって、その運営は国連とは別に行われます。具体的には、11ある加盟国が常駐(あるいは常任)代表と副代表を指名し、重要事項を審議、意思決定を行っています。わが国の場合、常駐代表を在タイ日本国大使館公使、常駐副代表を同館参事官、常任副代表を産業技術総合研究所が受け持っています。

これまで、常駐代表は新美 潤^{にいみ じゅん}氏、常駐副代表は薄井次郎^{うすいじろう}氏、常任副代表は加藤 碩一^{かとうひろかず}氏でしたが、このたび、常駐代表が交替いたしました。新代表は上海総領事から在タイ特命全権公使に就任した隈丸優次^{くままるゆうじ}氏です。

そこで、バンコク都内のホテルで7月23日(夜間)に、隈丸氏を歓迎、新美氏を惜別、関係者に交代を

報告する意味で、小林秀明大使夫妻によるレセプションが開かれました。まず、小林大使より、7月22日付で特命全権公使(Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary)として着任した隈丸氏を歓迎、7月25日に離任する新美氏を惜別、新美氏のバンコクでの活躍(特に日タイ修交120周年関係)に謝し、隈丸氏の今後に期待するとの挨拶がありました。

ついで新美公使、最後に隈丸公使のスピーチがあり、その後、各自懇談となりました。レセプションは各国大使館、国際機関、タイ政府等から多数の参加があり、和やかな雰囲気の中、無事終了いたしました。

最後になりますが、前任者である新美 潤氏は経済産業省へ異動されました。新美氏のCCOPに対するご配慮、ご支援に感謝の意を表するとともに、新任地での活躍をお祈り申し上げます。

参考文献

Reedman, A. and Shimazaki, Y. (2006) : A World of Difference, Forty Years of the Coordinating Committee for Geoscience Programmes in East and Southeast Asia (CCOP) 1966-2006. CCOP, Bangkok.

MURAO Satoshi (2008) : Minister Yuji Kumamaru Appointed to the New Permanent Representative of Japan to CCOP.

<受付:2008年8月4日>



写真 隈丸新日本代表と(中央)チュンCCOP事務局長(左)。



写真1 レセプション参加者と別れを惜しむ新美公使夫妻(中央 右から二人目, 三人目)。

1) Coordinating Committee for Geoscience Programmes in East and Southeast Asia (CCOP)

キーワード: 国際機関, CCOP, CCOP常駐代表, 在タイ日本国大使館, 科学技術外交